

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	紋枯病（防除情報第14号） トビイロウンカ	多 やや少	多 やや少
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	並 少	並 少
いちご	うどんこ病 炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ） ハダニ類	少 やや少 やや多	少 並 やや多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病、斑点病） アザミウマ類	やや多 やや多	やや多 やや多
かんきつ	かいよう病（注意報第3号） 黒点病 ミカンハダニ	多 少 並	多 やや少 並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 少 やや多 やや少 並 少 少	並 少 やや多 やや少 並 少 少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

令和3年9月14日付け**病虫害発生予察防除情報第14号**による。

2. トビイロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（86筆）の結果、株当たり虫数は0.0頭（0.7頭）、発生圃場率は31.4%（58.1%）であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、株当たり虫数は0.1頭（2.2頭）、寄生株率は5.0%（38.7%）であった。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は8.4%（9.4%）、株当たり虫数

- は0.3頭（0.5頭）、白変葉発生圃場率は66.7%（44.2%）であった。
- イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は4.0%（4.8%）、株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）であった。
- ウ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、9月1半旬は平年よりやや多くなったが、その後やや少なく推移している（図）。

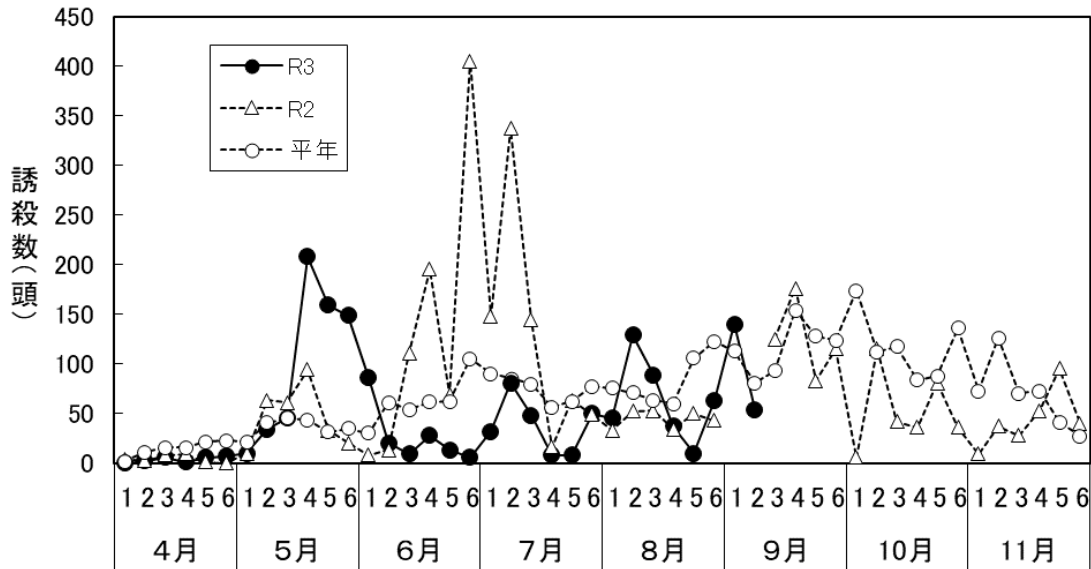


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況（諫早市小船越町）（月・半旬）
 ※R2 9月1、2半旬台風のため欠測

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

- ア 9月前期の巡回調査（15筆）の結果、発生は認められなかった（寄生株率0.3%、株当たり虫数0.0頭、発生圃場率15.8%）。
- イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は2.0%（3.4%）、株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率1.2%）。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 9月前期の巡回調査（26筆）の結果、発病株率は0.0%（0.2%）、発生圃場率は

7.7% (18.0%) であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は10.2%(3.9%)、発生圃場率は53.8%(35.5%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本圃でハダニが多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないように定植前までに防除を徹底する。

イ ハダニ類は下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和3年長崎県病害虫防除基準P216～219の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

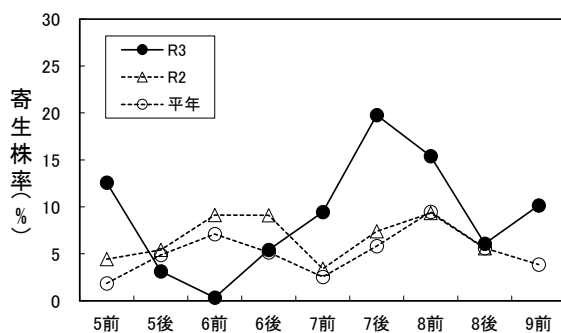


図 ハダニ類 寄生株率の推移

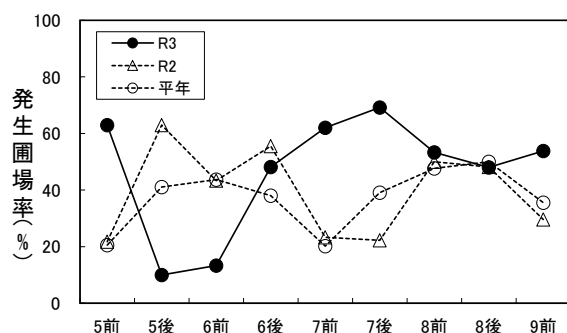


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

アスパラガス

1. 斑点性病害

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病側枝率は13.1%(11.3%)、発生圃場率は90.9%(65.9%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 種実をつけた老茎や黄変しかかったものを除去して株内の風通しをよくする。

なお、整理した罹病茎葉は圃場外に搬出し、地中深くに埋めるなど適切に処理する。

イ 降雨後は多発しやすいので出来る限り早めに追加防除を行い、薬剤散布の際はかけむらがないよう十分量を丁寧に散布する。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(11筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所)は42.7頭(6.1頭)、発生圃場率は45.5%(55.7%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和3年長崎県病害虫防除基準P284～285の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

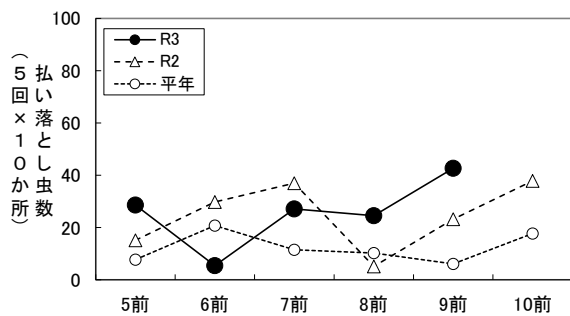


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

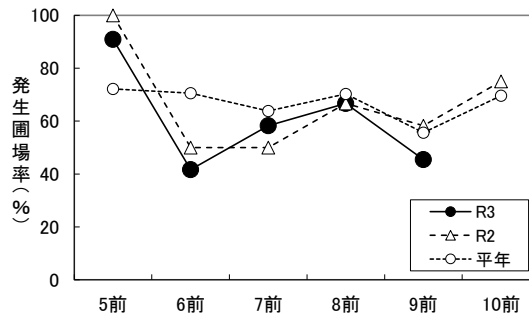


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

令和3年9月16日付け**病害虫発生予察注意報第3号**による。

2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率は0.6%（6.8%）、発生圃場率は19.4%（39.8%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては収穫期に近い品種では使用時期を確認し、使用基準を遵守する。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は2.2%（4.0%）、発生圃場率は30.6%（33.9%）であった。

果樹共通

1. カメムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 少
(2) 予報の根拠

ア 8月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの1枝当たりの寄生虫数は0.7頭（2.2頭）で平年より少ない発生であった（表）。

イ フェロモントラップによる誘殺数は平年より少なく推移している（図）。

表 ヒノキ樹(きゅう果着生枝)における果樹カメムシ類の寄生状況

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	
令和3年	0.4	0.2	0.1	0.0	0.7	0.0	0	0	0	0.0	0.7
平年	1.2	0.2	0.3	0.2	1.9	0.3	0	0	0	0.3	2.2

* 令和3年8月18、19日にヒノキきゅう果結実枝のビーティング調査を実施

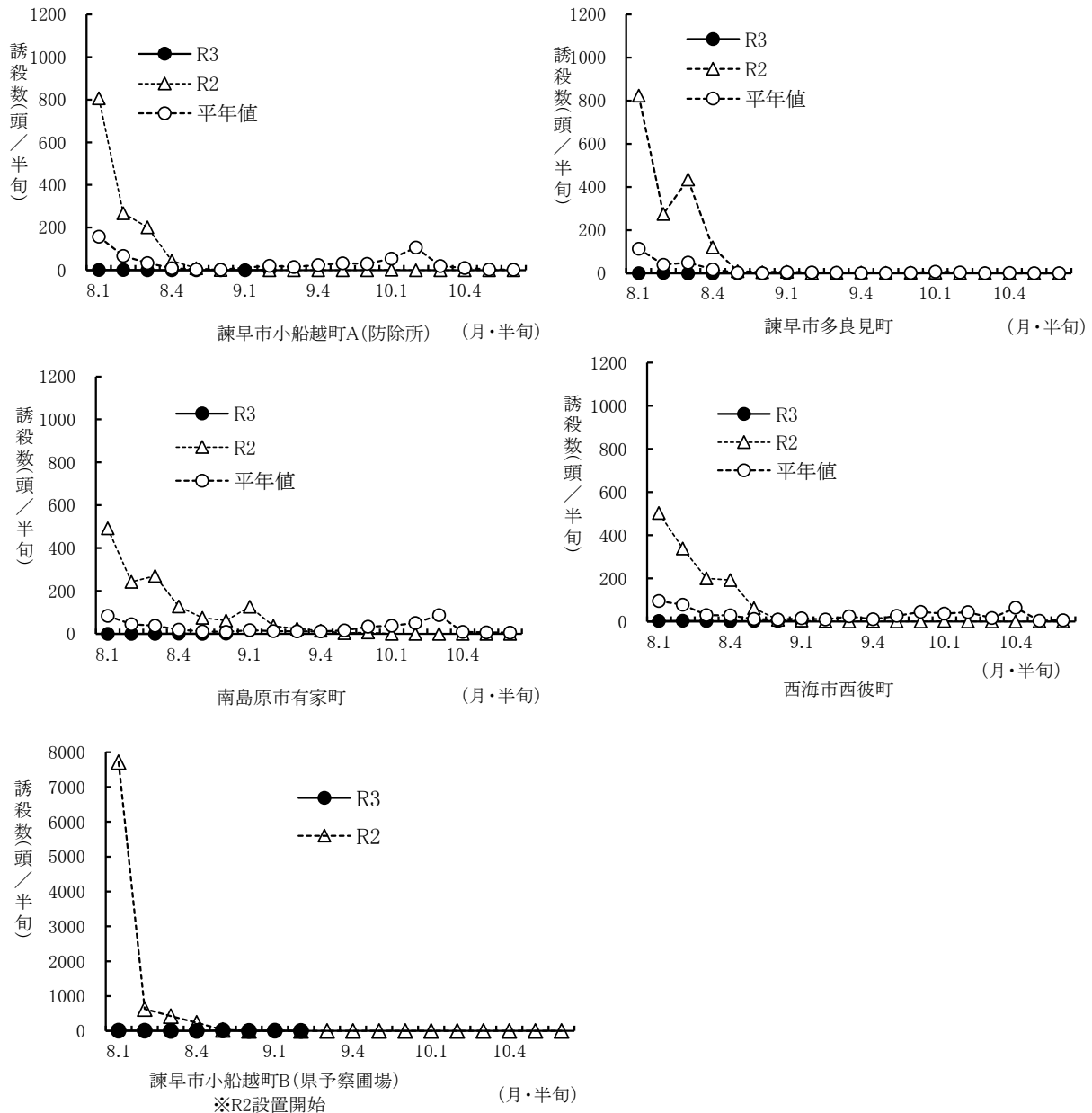


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来量や飛来時期は園地により異なる場合があるので、果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。とくに山林に近い園地や毎年発生が認められる園地では注意する。

イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布にあたっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(19筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は0.5枚(5.0枚)、発生圃場率は57.9%(67.2%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P428～429の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は5.6頭（13.3頭）、発生圃場率は57.9%（90.5%）であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.0枚（0.1枚）、発生圃場率は15.8%（8.9%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年よりやや多く推移している（図）。

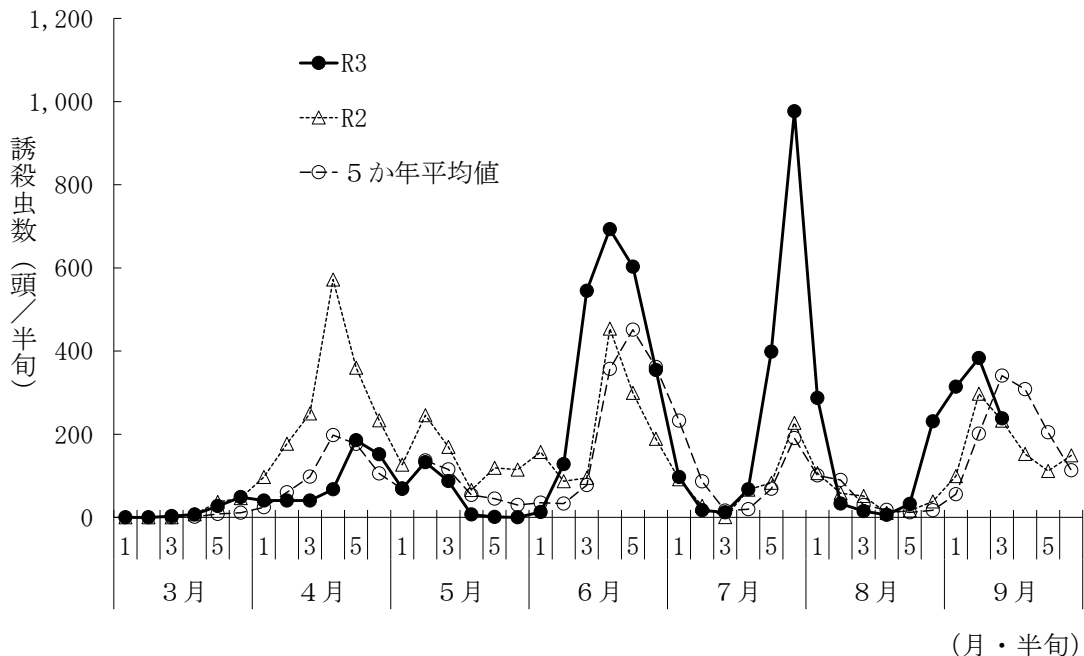


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期の目安は、脱皮阻害剤（IGR剤）は発蛾最盛期のころ、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7日後である。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.0枚（0.1枚）、発生圃場率は5.3%（8.2%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年よりやや少なくて推移している（図）。

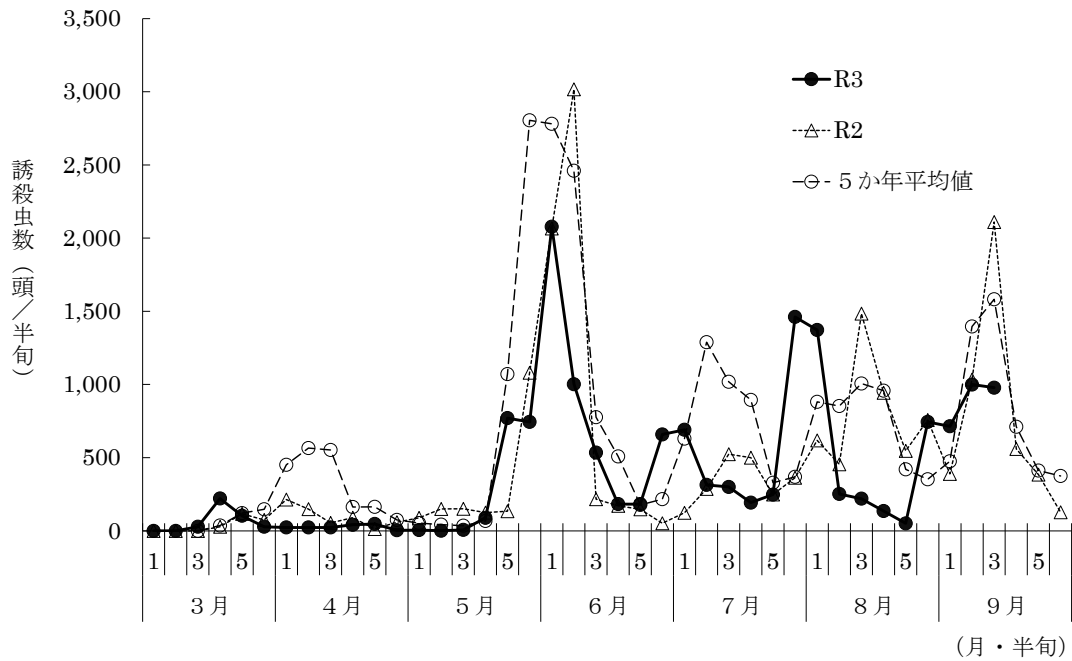


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は0.5%（0.8%）、発生圃場率は21.1%（13.9%）であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は0.5頭（1.8頭）、発生圃場率は26.3%（52.9%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生株率は0.1%（2.8%）、発生圃場率は5.3%（18.8%）であった。

【参考】

(令和3年9月9日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

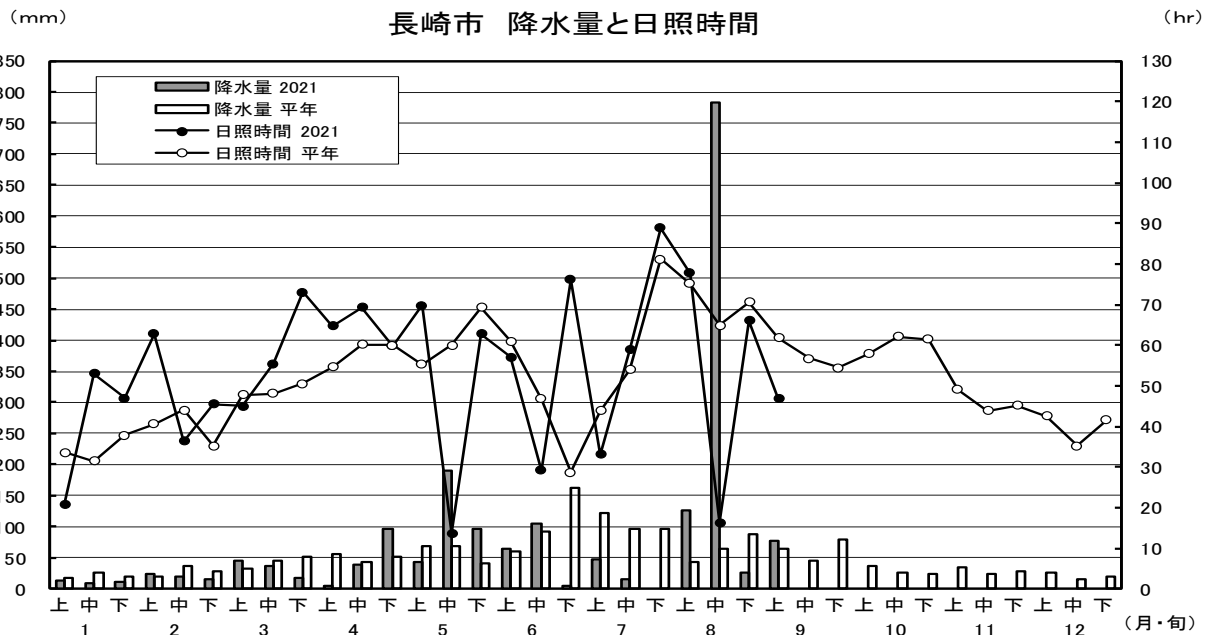
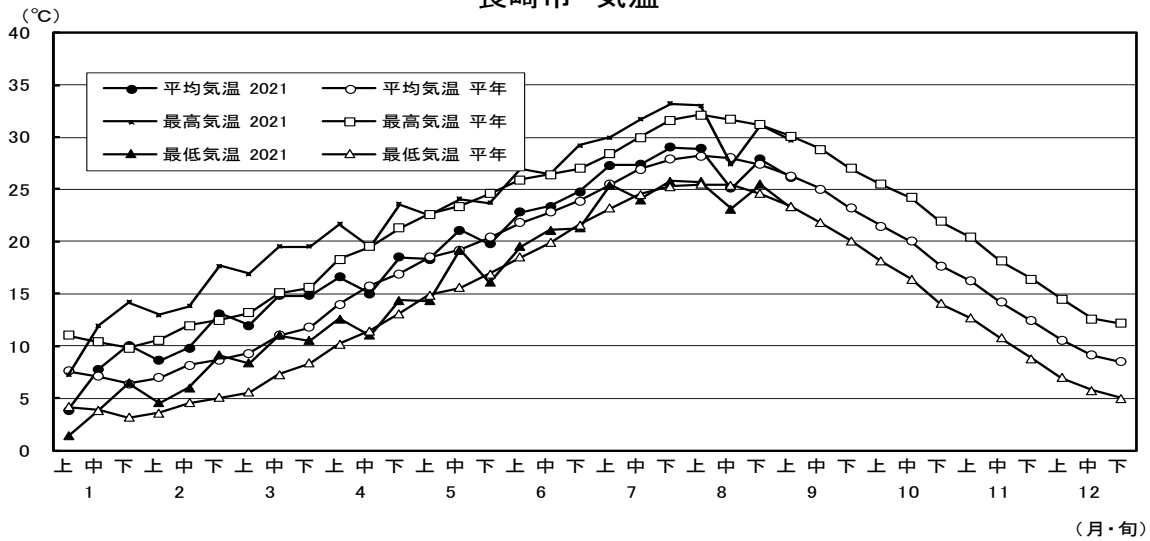
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和3年の気象経過（長崎地方气象台）

長崎市 気温



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

